

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4542 号 2018.8.13 発行

### 障害者も夢中でダンス「チョイワルナイト」 県内外の800人交流



東京新聞 2018年8月12日  
ポーカーの歌に合わせて踊る参加者たち

ダンスと音楽を通じて障害者と健常者らが交流を図るイベント「チョイワルナイト」が十一日、川崎市麻生区の新百合21ホールで行われた。八百人近くが参加。汗びっしょりになりながら、それぞれが自分なりのパフォーマンスを楽しんだ。(安田栄治)

イベントを開いたのは「ソーシャルワーカーズ」。会社員や社会福祉士、介護士、保育士、プロのダンサーなど男女約二十人からなり、福祉施設や福祉関係のイベントでダンスを披露している。活動は市内が中心で、年間八十回ほどになるという。

「チョイワルナイト」は、障害者らが参加できるダンスの場をつくりたい、との思いから毎年八月に同市内で開催しており、今年で九回目。知名度が浸透してきたとみられ、今回は福島県や静岡県などからも訪れ、参加者は前回の六百人を上回った。市内のグループなどが披露するダンスや音楽に合わせて手をたたいたり、飛び上がったたりと思い思いに楽しんだ。

知的障害と自閉症がある六歳の息子と昨年が続いて参加した埼玉県越谷市の主婦篠崎リエさん(42)は「障害児を持つ親としてこういう活動に出ることができてうれしい。息子は音楽が好きなのでジャンプしたり、雄たけびを上げたりと自分なりの楽しみ方をしている。笑顔がすごくいいので来年も楽しみ」と、駆け回る息子の姿に目を細めた。

ソーシャルワーカーズのリーダーTOMOYAさんは参加者たちに「これだけたくさんの人が集まってダンスに夢中になった。この盛り上がりは最高です。音楽とダンスのコミュニケーションを使いこなして、これからも楽しんでいこう」と呼び掛けていた。

### 自閉症の奏者・吉岡さん 浜松で繊細なピアノ披露

中日新聞 2018年8月12日  
巧みな指使いで多彩な音色を紡ぐ吉岡駿さん=浜松市中区の市福祉交流センターで

自閉症のピアノ奏者、吉岡駿(はやき)さん(18)=埼玉県朝霞市=のリサイタルが十一日、浜松市中区の市福祉交流センターホールで開かれた。繊細な指使いで多彩な音色を紡ぎ、会場を魅了した。

吉岡さんは三歳の時に知的障害を伴う自閉症と診断された。五歳からピアノを始め、これまでに国際ジュニアピアノコン



クールなどで入賞。二〇一四年から各地で年六回の自主公演を行ったり、中学校や市民の吹奏楽団などと共演したりしている。

「パリの音楽とドイツ BBB und B」と題し、フランス・パリで活躍したショパンやラヴェル、ドイツを代表するバッハやベートーベンら八人の作曲家の計十曲を演奏した。

一曲を弾き終える度、吉岡さんは舞台袖に入る際に、父良平さん（54）とハイタッチ。演奏した曲の評価を母親に書いてもらってから、次の曲に臨んだ。これらは自閉症特有のこだわり行動。吉岡さんのルーティンになっていると、良平さんは楽曲や音楽史の紹介に合わせて説明した。

良平さんは「駿の演奏を通して、障害者だろうと誰であろうと、音楽を楽しめると知ってもらいたい」と話した。（飯田樹与）

### 医学部入試、77%で合格率に男女差...読売調査

読売新聞 2018年08月12日

東京医科大が女子受験生らの合格者数を抑制していた問題を受け、読売新聞が医学部をもつ全国81大学に男女別の志願者数や合格者数などを尋ねたところ、回答した76校の77・6%に当たる59校では、今春の一般入試で男子の合格率が女子より高かったことが分かった。男女ごとの全志願者に対する合格率は、男子8・00%に対し女子6・10%と1・9ポイント低かった。東京医科大以外はすべて、性別による得点操作を否定した。

読売新聞は今月初め、東京女子医科大を除く81校にアンケート方式などで▽選抜方法▽過去5年の一般入試における男女別の志願者数と合格者数▽性別などによる得点操作の有無——を聞いた。北里大は回答せず、東京大、帝京大、富山大、福島県立医科大は男女の内訳を公表しなかった。

男女の合格率の格差は、女性を上とした場合の男性の割合の数値。数値は小さいほど小点数以下第3位を四捨五入

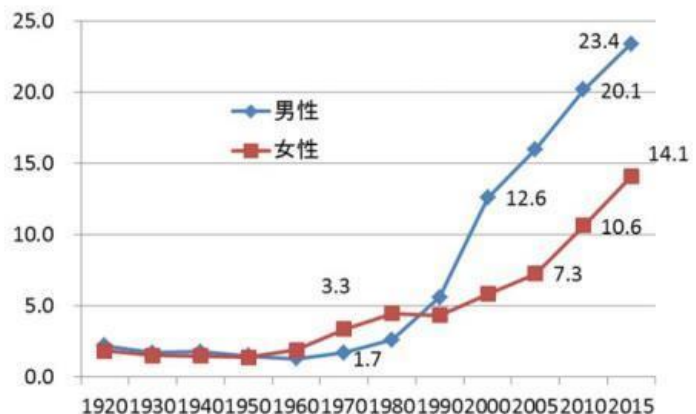
※は入学者数のみ発表		男(%)	女(%)	格差
2018年度	1 東京医科大	3.48	1.07	3.25
	2 山梨大	8.50	3.23	2.63
	3 聖マリアンナ医科大	5.07	2.07	2.45
	4 日本大	5.12	2.35	2.18
	5 岐阜大	5.91	2.96	2.00
	6 北海道大	33.33	18.75	1.78
	6 防衛医科大	5.86	3.30	1.78
	8 三重大	17.63	10.00	1.76
	9 奈良県立医科大	7.40	4.45	1.66
	10 順天堂大※	3.93	2.45	1.60
17年度	1 山梨大	6.37	3.04	2.10
	2 佐賀大	16.32	8.29	1.97
	3 金沢大	35.05	19.23	1.82
	4 順天堂大※	3.91	2.31	1.69
	5 札幌医科大	22.76	14.00	1.63
	5 東海大	1.43	0.88	1.63
	7 大阪医科大	7.14	4.55	1.57
	8 東北医科薬科大	5.04	3.23	1.56
	9 近畿大	6.63	4.29	1.55
	10 山口大	10.13	6.56	1.54

「生涯未婚率」男性が圧倒的に高いワケ  
ニッセイ基礎研究所 天野馨南子  
読売新聞  
2018年8月9日



「生涯未婚率」。国の重要課題である少子化問題を語る際に挙げられることが多いこの指数だが、この20年ほどの間に、男女間で約10ポイントもの大差がついている。な

50歳時点で1度も結婚歴がない男女の割合(%)



(参考資料) 国立社会保障・人口問題研究所 「人口統計資料集」2017年版より作成

ぜなのか……。結婚をめぐる男女“格差”のナゾを、ニッセイ基礎研究所の天野馨南子氏が読み解く。

### 「50歳結婚歴なし」が激増

統計上の「生涯未婚率」とは、「調査年に50歳の男女のうち結婚歴がない人の割合」を指す。この数字が、1990年の調査以降、急増傾向にある。2015年の国勢調査では50歳男性の23.4%、50歳女性の14.1%に一度も結婚歴がなかった。なお、90年には、男性5.6%、女性4.3%と、差はほとんどなかった。

生涯未婚率の上昇は、少子化にも影響しているといわれる。

日本社会の深刻な課題の一つである少子化は、日本人女性の合計特殊出生率（TFR：既婚、未婚を問わず、1人の女性が一生に産む子どもの数）で説明されることが多い。その数値はやや回復傾向にあったものの、1.5の「壁」を超えることはなく、16年以降は再び減少に転じている。

そして、現在と同程度の人口の維持に必要とされる値である「2」との間には開きがある。TFRは15年時点で1.45。一方、初婚の男女同士の夫婦が最終的に持つ子どもの数である「完結出生児数」は15年の調査で1.94。晩婚化などでゆるやかに減少してはいるものの、ここ30年間、「2」前後をキープしているのだ。

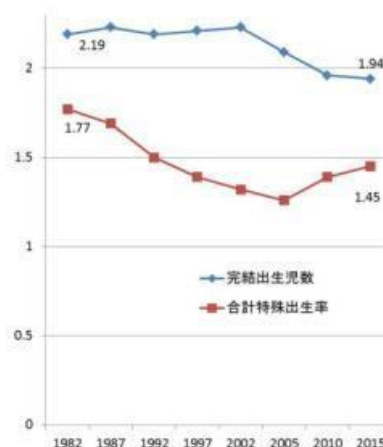
この二つの数字の「ギャップ」が、「結婚歴のない男女の増加（未婚化）」が少子化に大きく影響していると考えられる理由だ。男女の関係は多様化しつつあるといえど、結婚せずに子供を持つ「婚外子」の比率が長年、2%台で横ばいとなっていることからわかる。

ところで、生涯未婚率の算定年齢を「50歳」としているのは、50歳を過ぎてから初めて結婚する人の割合、実数がともに統計的に小さいからだ。

「いや、自分の周りには50歳を過ぎて結婚した人が結構いる」と感じる人もいるかもしれない。それは、再婚者を含む結婚ということではないだろうか。離婚や死別を経験した人が50歳を過ぎて結婚した場合は、生涯未婚率には全く影響しないので、実感との「ズレ」が生じるのかもしれない。



日本における完結出生児数と合計特殊出生率の長期推移（人）



資料) 国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」厚生労働省「人口動態調査」より筆者作成

### 生涯未婚率の「男女差」

少子化、高齢者の孤立、「おひとりさま」……様々な社会の課題と結びついていると考えられる生涯未婚率。特に注目すべきは、その男女差が拡大していることだ。

15年の生涯未婚率は、前述の通り男性が23.4%、女性が14.1%。「団塊ジュニア世代」が生まれる直前の1970年には、生涯未婚率は男性1.7%、女性3.3%だった。半世紀ほど前には、結婚歴のない人がわずかではあるが男性の方が少なかったのだ。

しかし、その後の45年間で、結婚歴のない男性の割合は実に14倍（女性は4倍）に増えた。結婚歴のない男性の割合が「50人に1人」から「4人に1人」へと激増したのだ。

未婚率に差がつく理由とは？

生涯未婚率の男女差に言及せず、まとめて「未婚化が進んでいる」という指摘はよく耳にする。

その多くは、1986年の男女雇用機会均等法の施行以降、女性の社会進出が進む一方、近年は非正規雇用の男性が増えたことを背景に、「エリート女性は自分と同水準かそれ以上のステータスや収入の男性との結婚を望む」「収入が不安定な男性は、家庭を持つ自信がなく結婚に踏み切れない」などとして、結婚の「ミスマッチ」が発生している、とする言説だ。

また、各種の意識調査の結果から、未婚者の希望する世帯年収が既婚者に比べて高くなるという「経済観念」、男性が自らの経済力を“結婚力”の根拠にしたがる「伝統的大黒柱観」などといった問題を指摘する声もある。

これらの根拠から、一般的な「未婚化」の理由は説明できよう。しかし、男女の生涯未婚率の大きな差を説明することはできないのではないか。

生物学的には本来、成人男女はほぼ同数存在するはずである。国の人口統計を見ると、50歳までは男性が多いものの、その差はわずかに過ぎない。16年6月1日現在、49歳までの人口は約6881万人で、そのうち、男性が約3505万人、女性が約3376万人。差は120万人余りだ（平均寿命は女性の方が長いので、50代以降は男女の数が逆転している）。

ところが、未婚率は年齢が上がれば上がるほど差が開く。20代前半の時点では、男性と女性の未婚率はほぼ同じだ。しかし、30代前半になると男性の未婚率が女性の1.4倍になる。さらに40代前半では1.5倍、40代後半では1.6倍、そして50代前半では1.8倍となる。

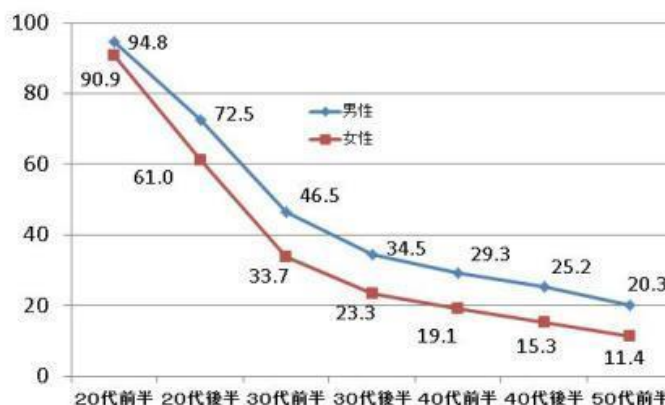
一体、なぜこんなに差が開くのか。

例えば、一夫多妻制の国であれば、男女の未婚率の差は当然のように発生する。日本では法的に認められていない結婚の形態だが、時間差で事実上の「一夫多妻制」が成立する場合がある。再婚男性と、初婚または再婚女性の結婚のケースだ。その再婚男性の妻となる女性の数だけ、未婚男性は結婚機会を失うことになる、といえる。

国際結婚があまり多くない日本では、男女の結婚歴の差は、こうした「再婚事情」が握っている可能性があるのだ。



年齢別の男女の未婚率の推移(%)



(参考資料) 2015年国勢調査結果より作成

### 日本の再婚動向はどうなっているのか

厚労省や国立社会保障・人口問題研究所（社人研）などの統計から、日本における再婚の実態を見てみたい。

16年に全国の市区町村の役場に提出された婚姻届に「再婚者が含まれる割合」は全体の25%を占めている。現代の日本では、再婚者を含むカップルが4組に1組にも上るわけだ。

「夫婦の3組に1組が離婚する」というネガティブな情報ばかりが目立ちはちだが、その次のステップとしての再婚も増加し、一般化したといっていこう。

統計的には初婚者同士のカップル、再婚者同士のカップルは結婚歴の男女差に影響しない。

注目すべきは

(A)「再婚男性と初婚女性」のカップル

(B)「再婚女性と初婚男性」のカップル

の割合である。

「再婚男性と初婚女性」の結婚と、「再婚女性と初婚男性」の結婚が同数なら、結婚歴の男女差を変動させることはない。

実際はどうか。16年度の1年間の結婚状況を調べたところ、結婚したカップル全体のうち、「再婚男性と初婚女性」が9.7%、「再婚女性と初婚男性」が6.9%で、前者が後者の1.4倍に上っていた。

「再婚男性と初婚女性」の結婚が、「再婚女性と初婚男性」のそれよりも多いという状況は、筆者が調べた1975～2016年の統計では、なんと40年以上にわたって続いていた。

毎年1万～2万件、「再婚男性と初婚女性」のほうが「再婚女性と初婚男性」より多かったのだ。これは毎年1～2万人のペースで、結婚歴のない男女の差が開くことを意味する。その積み重ねが男女の生涯未婚率の大きな差に結びついたことが統計的に読み取れる。

#### 「未婚率」男女差は埋まるのか？

では今後、生涯未婚率の男女差が解消される可能性はあるのだろうか。

統計上は「再婚女性と初婚男性」の結婚が増えるか、あるいは「再婚男性と初婚女性」の結婚が減れば、差は縮まる可能性はある。そこまでいなくても、「再婚男性と初婚女性」と「再婚女性と初婚男性」が毎年同数になれば、生涯未婚率の差は今まで以上に広がることはない。

結婚歴の有無や生涯未婚率で男性が上回っていること自体を「問題」と断じるべきではないのかもしれない。

しかし、社人研の調査では18歳～34歳の男女とも、約9割が結婚を希望していることがわかっており、一種の「日本社会の歪み」といえるのも事実だ。



この差を解消するには、どういった方法があるのだろうか。考察してみたい。

#### 初婚男性と再婚女性の結婚を促すには？

一つ目は、初婚男性と再婚女性の結婚を促すことだ。再婚女性が初婚男性との結婚を、そして、初婚男性が再婚女性との結婚を考えられるように偏見や先入観を打ち消すことだ。

「再婚女性と初婚男性」のケースを見てみたところ、初婚同士のカップルに比べて「年上女性と年下男性」のカップルが多かった。

初婚同士のカップルのうち、女性の方が年上というケースはほぼ4組に1組（24%）だが、「再婚女性と初婚男性」では、女性の方が年上である割合が、全体の半数近い44%まで上昇する。

つまり、初婚男性が年上の再婚女性と結ばれる可能性は比較的高い、といえる。「結婚するなら年下の女性」という先入観は、よき相手との出会いを阻害してしまうかもしれない。

#### 初婚男性が再婚女性と結婚できない理由...

初婚男性にとって、再婚女性に子どもがいる場合、それが結婚に踏み切れない「壁」となる場合もあり得る。

OECD（経済協力開発機構）の調査によると、シングルマザー世帯がその9割近くを占める「ひとり親世帯」の相対的貧困率は、調査対象となった先進国の中で日本は飛び抜けて高い。貧困状態にあるという実情が、再婚相手となる男性に高い「経済力」を求める理由となりうるのではないか。結果的に初婚男性にとって、再婚女性と結婚する際の障害になる、と筆者は見ている。

ならば、「シングルマザーの経済力向上」が、男女の生涯未婚率の差を解消するカギともなり得る。シングルマザー世帯が経済的に安定し、年下で収入が多くない初婚男性との結婚にシングルマザーが踏み切りやすくなるよう、国や自治体がセーフティーネットを整備することが必須ではないだろうか。

### 亀の甲より「年の功」？

生涯未婚率の男女差を解消するための二つ目の方法は、「再婚男性と初婚女性」に見られる偏りを是正する、というものである。特に再婚男性に強く見られる「若い女性への願望」を見直さなければならない、と思う。

前述したが、「再婚女性・初婚男性」カップルの夫のうち、44%が年上の妻を選んでいる。それに対して、「再婚男性・初婚女性」カップルの夫は実に80%が年下の妻を選んでいるのだ。年上の女性と結ばれたケースはわずか12%で（残りは同い年）、「初婚同士」「再婚女性・初婚男性」「再婚同士」を含めた四つの「結婚パターン」のうち、「年上女性」を選ぶ比率が最も少ない。



15年の日本の全ての結婚のうち、女性が年下である割合は58%であることを考えると、再婚男性の「年下志向」が際立つ。しかも、全ての結婚の年齢差の平均は男性が2.2歳年上だが、「再婚男性・初婚女性」のカップルでは男性が6.6歳年上だ。

「再婚男性と初婚女性」のカップルに占める、男性が7歳以上年上という結婚は44%（全体平均では16%）を占める。「若い妻を……」と考える再婚希望の男性が、若い初婚女性に狙いを絞って「結婚市場」へ参入するケースも少なくない。

初婚同士の結婚であれば、女性はむしろ自分の年齢に近い男性の方がいいと考えるようだ。初婚の男女同士のカップルの年齢差は1.7歳と2歳を切っており、結婚の4パターンの中で年齢差が一番小さい。

これが、男性側のみ再婚となると、初婚女性が相手の男性に求めるのは、社会や家庭での経験、つまり「年の功」の魅力なのかもしれない。

### 「若い女性」にこだわらず……

統計を読み解くと、結婚歴のない男性が結婚歴のない女性との結婚を望むなら（女性が結婚したい場合も同じく）、「自分と年齢の近い相手を狙う」ことが成功のコツといえそうだ。もし、未婚の若い人と結婚したいなら、男女ともに「自らが若いうちに積極的に動く」べし、ということになる。

世の中では、女性の「結婚適齢期」がよく話題になる。しかし、統計的には結婚願望を持ちながらも、結婚歴のないまま年を取る男性の方がかなり多いことになる。実は男性こそ、早く婚活を始めるべきかもしれない。そして、これは男女ともだが、初婚の段階では、自分とほぼ同じ年齢の相手との結婚が「有力な選択肢」となることも意識したい。こういった選択肢の変化が「社会の歪み」の是正につながる可能性はあるかもしれない。

### 大阪府公館で婚活イベント 9月8日



大阪日日新聞 2018年8月11日  
さまざまな催しで活用され、婚活イベントの場になる大阪府公館＝大阪市中央区

1923年に建設された大阪市中央区の歴史的建築物、大阪府公館で9月8日、婚活イベントが開かれる。府と結婚相談所運営「パートナーエージェント」が、結婚や婚活支援に関する事業連携協定を締結したのに伴い、第1弾の取り組みとして企画した。

府公館は、建築されてから知事の住宅や執務室、

応接室として使われてきたが、2008年から府の催しなどの会場として使われている。

協定は今年6日に締結した。イベントに参加する女性は、保育士資格を持っている人に限る。最初にセミナーを実施して女性向けには、保育士の仕事と結婚の両立などをテーマにし、男性向けには働く女性のサポートについて展開する。

午後1時半～同6時。参加費は男性が3千円、女性が2500円。対象は府内在住か通勤で、男女とも25～40歳くらいまでで各15人程度。申し込みはサイト「おとなの婚活パーティーOTOCON」からできる。

## 保護者スマホに子ども位置情報 府内でサービス人気 大阪日日新聞 2018年8月12日

5センチ四方の端末を子どもに持たせ、スマートフォン向けアプリで位置情報を把握できるようにしたサービスが好評を得ている。端末は最短1、2分間隔で現在地を自動探索。人工知能(AI)でよく行く場所も自動で特定し、利用者は発着時の通知などを設定できる。通学の時間帯に起こった大阪北部地震の際は、今後の備えとしてニーズが高まったという。

子どもらに持たせる端末(左)と、保護者らがスマホで確認できる移動履歴

端末「GPS BOT (ジーピーエス・ボット)」は縦横5センチ、厚さが1.9センチ。家電メーカー「ビーサイズ」(横浜市)が開発した。大阪では、大手企業などが、子どもらの見守りサービスの端末として採用している。

端末は、衛星利用測位システム(GPS)をはじめ、Wi-Fi(ワイファイ)の接続ポイントや携帯電話基地局の電波で位置を探索。過去1週間の移動履歴が確認できるほか、学校の登下校などのタイミングを自動で保護者らのスマホに通知するよう設定できる。

AIの活用で、1週間程度使い続けると、自宅やよく行く場所を自動で特定。保護者らに通知する場所として提案があったりするのも特長だ。

費用は、最初に本体5184円と送料がかかり、後は月額518円でサービスを利用できる。2017年4月から取り扱いを始め、今年7月末までに約2万台を販売した。

大阪では、今年3月からJR西日本の見守りサービスの端末として採用されたほか、7月には大阪ガスの子会社と連携し、子どもや高齢者らの見守りサービスの端末として導入された。

6月の大阪北部地震の際は、端末の注文数が通常期と比較して一時2倍になった。「ちょうど登校時間だったこともあり、子どもの位置情報をどう把握するかに関心が高まった」(ビーサイズ)とみている。

今秋には、通学中に大きく通学路を外れた場合など、普段と異なる行動を示した際、自動通知する機能を追加する予定。八木啓太社長は「親は安心して子どもを送り出し、子どもも安心してチャレンジができる。そんな日常が送れるようにしていきたい」と意欲を示している。



## 不登校問題全国のつどい 大阪で25、26日 大阪日日新聞 2018年8月12日

「登校拒否・不登校問題全国のつどい in 大阪」(登校拒否・不登校問題全国連絡会など主催)が25、26の両日、大阪市中央区の府立労働センター(エル・おおさか)を主会場に開かれる。有識者の講演のほか、学校との関わりや家族の役割などをテーマにした分科会が予定されており、参加者が思いや悩みを語り合う場を提供する。

府によると、2016年度の府内の小学校の不登校の児童数は2394人（15年度＝2086人）。中学校は8162人（同7934人）だった。高校では6301人（同6603人）に上った。

全国のつどいは、不登校に悩む保護者や教員が、それぞれの思いや悩みを語り合うことのできる場として開催。1996年から毎年8月に全国各地の持ち回りで実施している。

毎回600～700人の保護者や教員、当事者、専門家が参集。有識者や講師、参加者同士が対等な立場で学習や交流を図るのが特徴になっている。

今回は初日に、立命館大名譽教授で「登校拒否・不登校問題全国連絡会世話人代表」を務める高垣忠一郎さんが講演する。テーマは「いのちと自己肯定感愛で育つ」。

講座は両日開催し、26日はNPO法人「おおさか教育相談研究所」の相談員の村上公平さんが講師となり、子どもが学校に行けなくなったときに、親が家庭でどう受け止めればいいのかを学ぶ。

「登校拒否・不登校問題全国のつどい」について説明する古庄さん（右端）ら＝大阪府庁

同研究所の相談員の馬場野成和さんによる講座では、親と教員が子どもの成長や回復のために、どう協力すればいいかを参加者と考える。

このほか、さまざまなテーマを扱った分科会を設けている。小学生、中学生、高校生の不登校に関する分科会や、障害のある子どもの不登校、親や家族の役割をテーマにした内容、進路・自立についてなど計12の分科会がある。

同連絡会の古庄健さんは「つどいでは、専門家に教わるのではなく、対応で平等に学習する」と来場を呼び掛けている。当日の参加も受け付ける。

◇つどいは25日が午後0時半から、26日が午前9時から。問い合わせは電話090（2064）4622、実行委員会事務局。



## 厚生・国民年金、10兆円黒字 株高で積立金の運用好調 朝日新聞 2018年8月10日

厚生労働省は10日、会社員や公務員が入る厚生年金と自営業者らが入る国民年金の2017年度決算（時価ベース）を公表した。株高で積立金の運用による収入が年間10兆円以上に上ったこともあり、合わせて10兆7208億円の黒字で、厚生年金、国民年金とも2年連続の黒字になった。黒字額は前年度とほぼ同じだった。

厚生年金は10兆4479億円の黒字だった。歳入は56兆8713億円。雇用環境の改善に加え、厚生年金の対象を短時間労働者にも広げ、被保険者数が増えた影響などから、保険料収入は前年度より約1兆5千億円多い30兆9441億円だった。年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の運用による収入も9兆4401億円あった。一方で、歳出は46兆4233億円で、内訳は給付費や基礎年金給付への繰入金などだった。

国民年金は2729億円の黒字だった。歳入はGPIFによる運用収入5892億円など、計4兆4336億円。歳出は4兆1607億円だった。（佐藤啓介）

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行